

徳善寺だより

第3号 平成15年 1月

あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで新年を迎えられたことを謹んでお慶び申し上げます。昨年ふりかえってみれば、物質文明のめまぐるしく進む中、一方で思いもよらない事件も数多くありました。しかし、考えさせられることも多々あったように思います。欲がある人間はもっと便利な世の中を作っていくでしょう。しかし、私たちが生きていくうえで本当の幸せをみつけていきたいものです。

年末のお参りの後に、「今年ももう終わりやね。一年はあつというまやわ。また歳いくなあ。」という門徒さんの言葉をよく聞きました。人間は「おぎゃあ」と生まれてから「死」に向かっていく旅人のようなものです。誰も「老い」から避けることもできないし、「死」からのがれることができません。その中でどう生きていくのかが問題なのです。

たまたまなにかの偶然で、この時代、同じ国、同じ街、同じ地域に、人の体をもって存在し、また何十年後かにはこの舞台からきえゆく人間が、お互い相手を受け入れ、共感する気持ちで生きていくことが、その「体」と「心」を豊かにし、いきいきした人生を歩むこととなるのではないのでしょうか。そういう心を持ち続けたいですね。本年もよろしくおねがいします。

合 掌

○ お 知 ら せ

☆ 年忌について

本年度、年忌法要が当たるのは、次のとおりです。法要が休みに集中することが多いので、できるだけ早く、日時をお知らせ下さるようお願いいたします。

一周期	三回忌	7回忌	13回忌
平成14年	平成13年	平成9年	平成3年

17回忌	25回忌	33回忌	50回忌
昭和62年	昭和54年	昭和46年	昭和29年

ご門徒の皆様、あけましておめでとうございます。

いいお正月をお迎えになられたことと拝察しております。

震災後9年目となりましたが、徳善寺も昨年1月に再興しましてからはやいもので1年が経ちました。ご門徒の皆様のお力添えで、この1年ますます平穩に送ることが出来ました。ありがとございました。

今年も皆様のご協力を賜り、一層の寺門の発展をはかって行きたいと思いを。よろしくお祈りいたします。

ご多幸をお念じ申し上げます。

合 掌
総代 松原 義一
尾川 一
西川 利夫

○ おたより・おしらせ

・昨年11月16日に報恩講法要を行いました。多数のご門徒さまにお参りいただき、ありがとうございました。

・今年3月頃に昨年と同様、彼岸会法要を行いたいと思っております。詳しい日程は後日ご連絡したいと思っております。報恩講同様、皆様のお参りをお待ちしております。

・私ごとでございますが、2月12日～14日まで、京都の西山別院にて研修を行ってまいります。その間、お寺を留守いたしますのでご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

○ 編集後記

寒さが続く今日この頃ですが、暖冬の長期予報が厳寒となって、高齢者には身にこたえる日々となっています。どうか皆さんお体には十分お気をつけて下さい。

震災後8年経って、被災者の編集者にも漸く落ち着きが出てきましたが、まだマンション内でのお付き合いに不十分なところがあり、年末に同じ階の一人住まいの老人が亡くなられたのを知らないという状態で、反省しきりです。「お寺が地域社会にどのように貢献するか」が総代研修会の研究課題の一つでしたが、結論は出なかつたように思いました。今後考えて行きたいと思っております。